



百太郎溝の取水口

球磨南部地区土地改良

1. 球磨南部開発の歴史
2. この地域のすがた
 - a 幸野溝
 - b 百太郎溝
 - c 開拓地と畑地
3. 計画のあらまし
4. 今後の見とおしと問題点

一 玉名平野土地改良

を差し引き純収六千万円の増加と踏んでいる。
また、近代化による労力節減額はざつと一千万円。維持管理節減額を約一千万円とみている。

事業に要する経費は……

頭首工、白石堰改修二億四千万円、幹線水路、支線水路、その他附帯七億六千万円で、また予算面からすると土地改良事業費約八億三千五百万円、災地復旧費約九千五百万円、干拓事業費約七千万円の計約十億円である。

また、この十億円のうち干拓については全額国費、残りは、国庫補助約五割、県費二割五分、地元二割五分であり、概略、受益者負担は約二億四千万である。

市町村補助を度外視すると、受益地四千四百畝として一〇アル当り四千五百円の負担となる。

しかしながら、この負担金は事業が短期に、すなわち一時に修了した場合のことである。事業は約七十年で完了、負担金の八割は長期低利の政府資金が融通されるしくみである。

農業への設備投資……

前記の長期低利資金というのは、五年据え置き、十五カ年賦償還、年利六分五厘の農林漁業金融公庫資金であつて、この制度は非補助、すなわち国庫補助金のない土地改良事業については、色々の規制はあるが、利率は三分五厘であつて、事業費の八割が融通される。

大ざっぱな計算をしてみると、二億円の投資に対し六千万円の利益である

から、五千万円とみても年間二割五分の利益率である。

また、投資金の長期利息を積算して三億円としても、二割の利益が挙がる計算になる。つまり、一畝保有の個々の農家は、五万円の投資をして、事業終了の年からは年間平均一百万円の利息があがるということになる。

この長期低利の土地改良という設備資金は、一般俸給生活者が入りこめない農業者の特権であり、また、この借金を返済した暁には、この設備投資による益金は、そのまま、自然増収となり、農家の所得は飛躍的に増大するわけである。

ここに「農業へも設備資金を」と提唱する意義があり、玉名平野農家の悲願もここにある訳である。

工業用水との関連……

昭和三十六年のはじめ有明臨海工業地帯造成がクローズアップされ、これに関連する工業用水がキーポイントとして注目されてきた。

現在の玉名土地改良事業計画の中には、既得の三井工業用水は含まれていないけれども、有明臨海工業地帯に対する分は計画されていない。

しかしながら、工業用水をとるとすれば、地下水はともかくとして、菊池川からであり、取水は白石堰からというのが最も合理的でまた安価であろう。この問題は極端にいうならば、長い将来には農耕地も漸次関連工業地帯へ転用され、それだけ農業用水も不要になると思うが、当面する農業用水を工業用水へ……ということになる、将来地元の協力をえて

開田、または畑かん地帯の計画改訂、あるいは非かんがい期の水の貯留等が予想され、これにより当面の臨海工業用水はまかなえると思う。

また、上流菊池川ダム建設等による湯水量の増加も、用水量増加に大きな役割を果すことが期待されるのである。